

東予工場の乾燥設備・蒸気過熱設備の燃料を LNG 化 ～製錬事業での GHG 削減の取り組みを加速～

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：野崎 明）では、東予工場（愛媛県西条市）の精鉱乾燥設備および蒸気過熱設備の燃料を、従来の重油から CO₂ 排出量の少ない LNG へ変更することを決定いたしました。2023 年と 2025 年の定期休転で配管関係の工事とともに主要設備の改造を行い、それぞれ完成した設備から稼働させていきます。

東予工場で行っている銅製錬では、主原料となる銅精鉱を熔解する前段階として乾燥させ、またボイラーで発生させた蒸気を過熱して発電に用いています。これらの設備においては 1971 年の工場稼働開始以来、燃料に重油を使用してまいりましたが、昨今の脱炭素化の流れを受け、製錬事業における GHG（温室効果ガス）削減を推進するために今回 LNG 化を行うこととしました。これにより、東予工場における重油由来の CO₂ 発生を約 2 割削減できると見込んでいます。

当社ではこのほか、ニッケル工場（愛媛県新居浜市）においてもボイラーの燃料源の変更に着手しており、2023 年に重油から LNG への変更が完了する予定です。また、主に電池材料の中間製品の原料となる硫酸ニッケルを生産している播磨事業所（兵庫県加古郡播磨町）では、関西電力株式会社から再生可能エネルギー由来の非化石証書を持つ CO₂ 排出量ゼロの電力を購入する契約を締結しており、グリーンエネルギー化を実現しています。

2021 年中期経営計画では、GHG 排出量削減に向けた投資として総額 120 億円を予定しており、ICP（社内カーボンプライシング）制度を適用した設備投資では 50 億円を投じて、各事業でボイラー燃料転換等の GHG 削減に向けた設備投資を進めていくことを掲げています。製錬事業における今回の施策は、この取り組みの一環となります。

当社は、「2030 年のありたい姿」で掲げた「温室効果ガス排出量ゼロに向け、排出量削減とともに低炭素負荷製品の安定供給を含めた気候変動対策に積極的に取り組んでいる企業」であるべく、引き続き GHG 削減の取り組みを進めてまいります。

【東予工場燃料 LNG 化の概要】

投資額：約 12 億円

CO₂削減量：年間 約 1 万 2 千トン- CO₂

稼働時期：2023 年 12 月より順次稼働予定

以 上

本件に関するお問合せ先

住友金属鉱山株式会社 広報IR部 東京都港区新橋 5-11-3 新橋住友ビル

TEL: 03-3436-7705 Eメール: smm_koho@smm-g.com